

川島焔三氏の発表についての

質疑応答

(質問者 2 名)

【質問】 井上克人 (関西大学)

(1) 田辺には初期の段階では「カントの目的論」があり、道徳的目的論が論じられています。またカントには『永遠平和のために』という著作がありますが、弁証法的行為による絶対平和を目指す田辺は、カントの平和論をどのように批判的に見ていたのでしょうか。

(2) 田辺元が終戦後、懺悔道を通じて絶対平和の実現を希求した理念、言い換えれば絶対無に基づく「兄弟愛」に貫かれた実践は、昭和が終わり、平成も終わり、令和の時代を迎えた現在にも通用すると思いますか。世界の状況は昭和の終戦の時期とは大きく変化してきました。たとえば 21 世紀に入って、IS のイスラム原理主義によるテロ事件が勃発してきた現在の世界状況のなかで、どこまで昭和時代のそうした理想的・観念的な理念が通用すると思いますか。ありていに申し上げて、今時、田辺元の懺悔道に基づく絶対平和希求論を唱える現代的意義はどこにあるとお考えでしょうか。時代錯誤の感がいたします。

(3) 4 の「絶対媒介の世界」の冒頭に、「絶対媒介の世界とは悟りとしての絶対矛盾的自己同一に一度と到達し、絶対無の境地に入り、普遍的な愛に目覚め、その普遍的な愛の実践として行為する実践の場であって、その実践の場は常に弁証法的に展開される。」とありますが、現在の世界状況のなかで、具体的にはどのような行為を考えていますか。それが示されない限り、こうした観念的な論述はまったく説得力に欠けます。

(4) 6 「世界の創造と発達障害の意味」のなかで、「発達障害」という言葉を使用される際、いささか誤用されているふしがあり、また田辺の懺悔道を理解せず、人類の理想を理解できないのは「発達障害」だ、という文言があって、「発達障害」であることがあたかもよくないかのごとき偏見、もしくは発達障害者への差別意識が垣間見られますが、どのように考えておられるのでしょうか？

【回答】 川島焔三 (津山工業高等専門学校)

回答 (ご意見・ご質問有難うございます。以下に井上克人氏のご意見・ご質問に対する回答をしますのでよろしく願います)

- (1) 註④でも触れましたように、田辺はカントの恒久（永遠）平和論者でもあり、その原則により如何にしたら戦争にならないようにすることができるかを愚直な程に考え抜き、政治経済の問題もその視野に入れながら考えており、その延長線上で「種の論理」に到達したものと思われます。それが民族の独立・ひいては大東亜共栄圏の構想に繋がり、軍部の独走という歯車に呑み込まれてしまったかの観があります。それが原爆投下という事態になり、二度と原爆の利用はさせないという絶対平和という概念が生まれた。それはカント批判から生まれたのではなく弁証法的な時代の流れが生み出したと言った方が適切ではないでしょうか。折しもアイキンの核兵器廃絶運動が実って、いよいよ1月からは本格的な活動になり、田辺哲学の理解も進むのではないのでしょうか。
- (2) 戦後間なしに「一億総懺悔」という言葉が使われましたが、田辺の懺悔道が理解されて、国民すべて田辺の懺悔道を理解したわけではなく、田辺個人が辛うじて到達した境地でありますから、大多数の日本人は殆ど無理解で、日々の生活に追われていたと思われます。田辺が言うような意味で多くの人々が懺悔道を実践していれば、朝鮮戦争は起こらなかつたらうし、米ソの対立もなかつたらうし、今日のISのテロも起こらなかつたらうでしょう。個人のレベルの問題と集団のレベルの問題を混同しないで欲しいと思います。
- (3) 「7 自己自身の観察と実践」以下論文の最後まで、私自身の活動を出来るだけ一般化して例示したつもりですが、それ以上具体的に述べるとしたらどんなことが気になりますか。私は今日社会問題になっている「ひきこもり問題」で社会的に色々提言させて頂いてきました。田辺が「戦後北軽井沢にひきこもった」ということは何か共通性があるように私には思われます。
- (4) 私は出来ればオールラウンドプレイヤーでありたいと思うことがありますが、そのような能力があるわけでは在りません。そのように考えれば誰でも発達障害であり、差別意識があるどころか、そういう意識を払拭するにはどうしたらよいか日夜悩んでもいます。というのも私の次男は本当の意味で発達障害ではないかと私は考えているのですが、今の医療体制では、そういう診断が下されないのです。私は心理学や医学の診断にはズーと違和感を持ってきたこともあり、通常理解を超えた印象を感じられるのは無理からぬことでしょう。しかし私の考え方が常識になることを私は願っています。

【質問】 榎本啄杜（関西大学）

① p.1「その行為のすべてが全体として救われる道が神の道であり、我々の目指している絶対平和への道であり」について、直前の「殺人や盗みや誤魔化しや詐欺」も同様に救われる

対象の行為で、絶対平和へつながっているということなののでしょうか。「絶対平和」においては「公」のための行為を優先すべきであるという考えと、殺人等の（いわば私的な）行為が合わないような感覚になり、疑問が生じました。

② p. 3「表面的には利他的であるかのように見えても、実際は利己からの行為であることもしばしばある。それは弁証法的な行為の連鎖によって確認される。ある段階での確認は必ずしも普遍的であるかどうかは確定できない。」について、私もこの部分に関して同意見なのですが、行為者としては、自身の行為が「絶対平和」に反していないという確信を行為時点では持てないことになるので、どのような基準で行為を選択すればいいのでしょうか。「絶対平和」に反する例として原発が挙げられていましたが、原発を用いたアメリカも、その時点では「公」のための行為であると確信していた可能性が高く、結果論に陥ってしまうのではないかという危惧があります。

【回答】 川島焔三（津山工業高等専門学校）

回答（ご質問・ご意見ありがとうございます。以下榎本啄杜氏のご質問・ご意見に回答します）

- ① これは親鸞の有名な言葉「善人なおもて往生せんいわんや悪人おや」の思想を踏まえた考え方で、田辺も深く親鸞には共鳴しており、その点を踏まえることは基本的な考えであると私は思っています。勿論一般常識的には責められるべき問題ではありますが、悪を引き起こす奥の問題に鈍感であってはならないとも思います。地獄の思想で以って悪を遠ざけることも必要ですが、絶対平和を目指す弁証法的な方位では恨みを残さない配慮がどうしても必要です。イスラムの世界では自爆テロが脅威になっていますが、「目には目を、歯には歯を」という恨みのサイクルをどこかで断ち切る知恵が必要です。絶対無即愛とか懺悔道とかに通じる大切な理念であると私は考えています。
- ② 私は自分の子どもを育てる時に、「自分がして欲しいと思うことを人にしてやりなさい、自分がされたいやなことは人にするな」つまり「汝の欲すること人にせよ、汝の欲せざること人にするなかれ」という儒教の原則を貫いた。これは聖書にも出てくる言葉です。その為に長男は49歳にしてその重荷に潰され他界した。次男はその重さに潰されそうだが、ひきこもりながら今49歳の独身の生活をしている。親がそう言ってもその殻を破るのが人間であるとも考えないでもなかったが、懺悔道に至る道は厳しかったようです。懺悔道に至らなければ絶対平和への道など実践することは不可能であると私は思っています。ですから辛い人生ですが、22歳で到達した私の人生の実験です。

原発と原爆を混同しておられる様にも思われますが、原発は原子力の平和利用ですか

ら絶対平和とは直接関係がないようです。放射能汚染というリスクが大きすぎるということ。原爆は二度と使用しない・させないということが絶対平和の意味でもあります。最初に利用したアメリカは戦争を終わらせるためであるとその正当化をしますが、そもそも戦争をしないようなどんな努力をしたのかが問われます。相手(日本)が怒るようにはけしかけ、相手がそれに我慢できないようなことをしなかつたらどうか。うまいこと罫にはまってくれたと裏でほくそ笑んで、リメンバーパールハーバーなどという呪文を作り出したともいわれています。ですから誠意を以って相手の利益になることを貫くことが絶対平和への方位になります。一人では気が遠くなるほど難しいことですが、そのような方向を目指す人が多くなればなるほど、絶対平和も単なる夢ではなくなります。